

1 公立小学校、公立中学校および県立高等学校における暴力行為の状況

(1) 暴力行為の総発生件数〈表(1)〉

公立小・中学校および県立高等学校における暴力行為の総発生件数 1,493 件 であり過去最多
【前年度 (1,275 件) より 218 件増加】

(2) 学校種別の発生件数〈表(2)〉

① 公立小学校

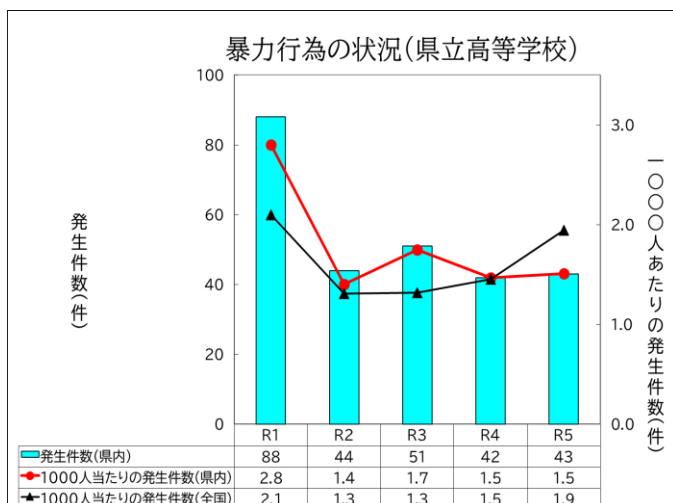
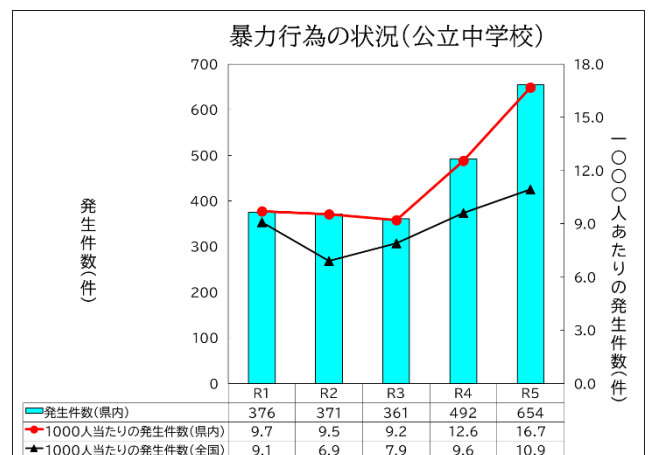
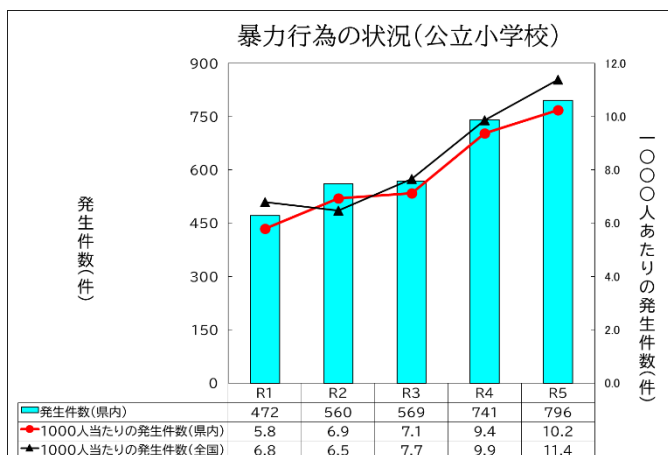
・総発生件数は 796 件 【前年度 (741 件) より 55 件増加】 であり過去最多

② 公立中学校

・総発生件数は 654 件 【前年度 (492 件) より 162 件増加】 であり過去最多

③ 県立高等学校

・総発生件数は 43 件 【前年度 (42 件) より 1 件増加】 と増加



(3) 校種別・形態別の発生件数〈表(3)〉

(暴力行為の形態は「対教師暴力」「生徒間暴力」「対人暴力」「器物損壊」の四形態)

① 公立小学校

- ・「対教師暴力」 164 件【前年度（275 件）より 111 件減少】
- ・「生徒間暴力」 525 件【前年度（340 件）より 185 件増加】
- ・「対人暴力」 1 件【前年度（3 件）より 2 件減少】
- ・「器物損壊」 106 件【前年度（123 件）より 17 件減少】

※ 県内における具体的事例

- ・ルールを守れないことへの注意に対して腹を立て、暴力を振るった。〈対教師暴力〉
- ・友人と口論になり、腹を立て、相手に対して暴力を振るった。〈生徒間暴力〉
- ・教師に注意されたことに腹を立て、物を投げ、窓ガラスを割った。〈器物損壊〉

② 公立中学校

- ・「対教師暴力」 167 件【前年度（114 件）より 53 件増加】
- ・「生徒間暴力」 373 件【前年度（290 件）より 83 件増加】
- ・「対人暴力」 8 件【前年度（2 件）より 6 件増加】
- ・「器物損壊」 106 件【前年度（86 件）より 20 件増加】

※ 県内における具体的事例

- ・教師から注意を受けたことに対して激昂し、胸元を押した。〈対教師暴力〉
- ・相手と適切なコミュニケーションがとれず、自分の感情を一方的にぶつけ暴力行為に至った。〈生徒間暴力〉
- ・タブレット端末の不具合に腹を立て、タブレット端末を投げて破損させた。〈器物損壊〉

③ 県立高等学校

- ・「対教師暴力」 7 件【前年度（10 件）より 3 件減少】
- ・「生徒間暴力」 27 件【前年度（20 件）より 7 件増加】
- ・「対人暴力」 2 件【前年度（2 件）より 増減なし】
- ・「器物損壊」 7 件【前年度（10 件）より 3 件減少】

※ 県内における具体的事例

- ・考査の点数が良くなかったことに腹を立て、教師を蹴った。〈対教師暴力〉
- ・ふざけ合いや不適切画像投稿から、暴力行為に発展した。〈生徒間暴力〉
- ・自分の感情が抑えられず、下駄箱を壊した。〈器物損壊〉

2 公立小学校、公立中学校、県立高等学校および県立特別支援学校におけるいじめの状況

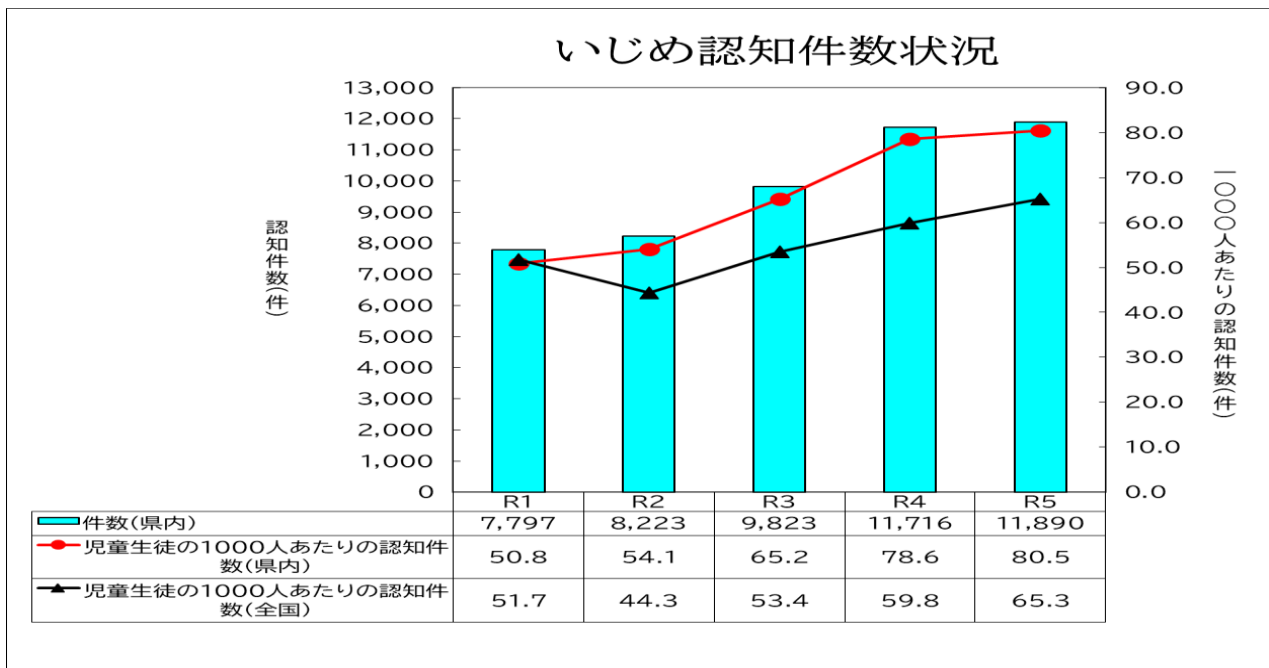
(1) いじめを認知した学校数（学校総数に対する割合）

公立小・中学校および県立学校はいじめを認知した学校の割合は96.6%【前年度 95.1%】

- ① 公立小学校
 - ・認知学校数 217校（98.6%）【前年度218校 99.1%】
- ② 公立中学校
 - ・認知学校数 98校（100%）【前年度 98校 100%】
- ③ 県立高等学校
 - ・認知学校数 48校（94.1%）【前年度 42校 82.4%】
- ④ 県立特別支援学校
 - ・認知学校数 9校（56.3%）【前年度 8校 50.0%】

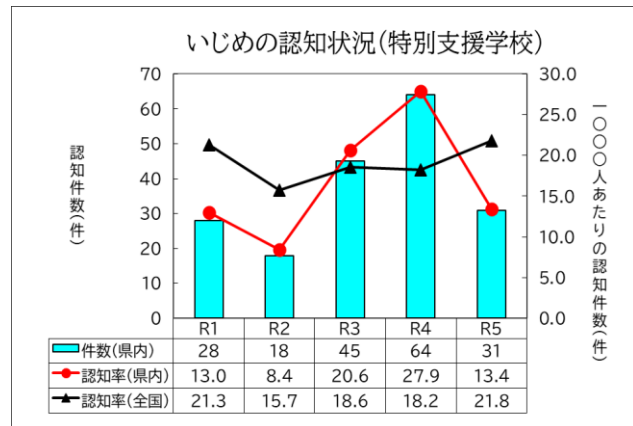
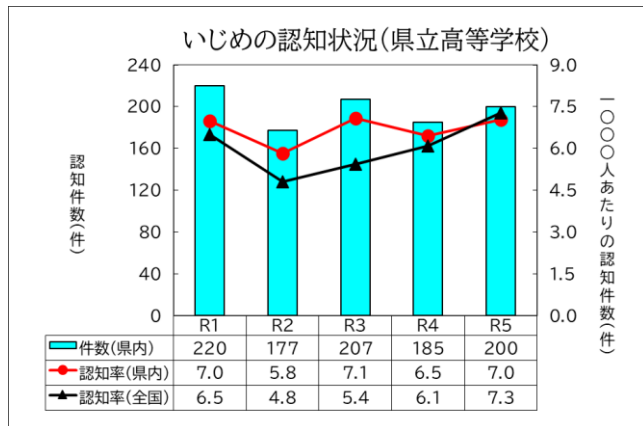
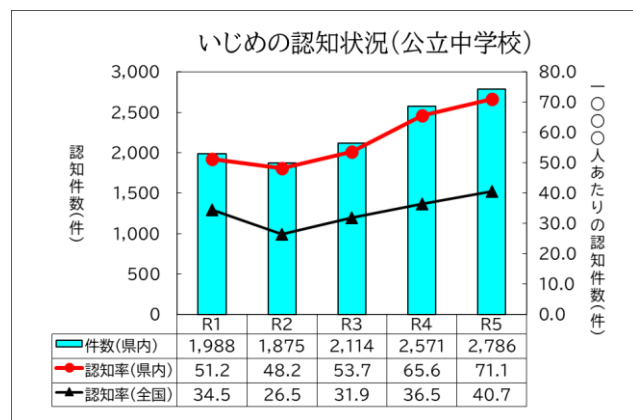
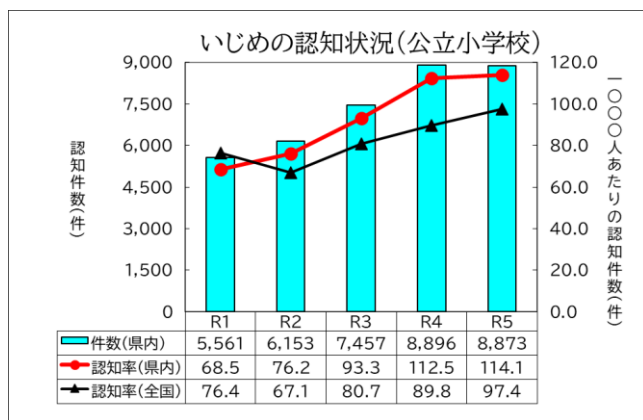
(2) 県内公立学校いじめの認知件数〈表(4)〉

公立小・中学校および県立学校はいじめの総認知件数11,890件であり過去最多
【前年度（11,716件）より174件増加】



(3) 校種別いじめの認知件数〈表(5)〉

- ① 公立小学校
 - ・認知件数 8,873件【前年度（8,896件）より 23件減少】と減少
- ② 公立中学校
 - ・認知件数 2,786件【前年度（2,571件）より 215件増加】であり過去最多
- ③ 県立高等学校
 - ・認知件数 200件【前年度（ 185件）より 15件増加】と増加
- ④ 県立特別支援学校
 - ・認知件数 31件【前年度（ 64件）より 33件減少】と減少



(4) いじめの態様〈表(6)〉

ア 小学校における多い態様

- ① 冷やかしからかい、悪口や脅し文句、嫌なことを言われる。
- ② 軽くぶつかられたり、遊ぶふりをして叩かれたり、蹴られたりする。

※ 県内における具体的事例

- ・気持ちを深く考えない相手から、嫌な言葉を言われた。
- ・腹を立てた相手に、叩かれたり、嫌がらせをされた。

イ 中学校における多い態様

- ① 冷やかしからかい、悪口や脅し文句、嫌なことを言われる。
- ② 嫌なことや恥ずかしいこと、危険なことをされたり、させられたりする。

※ 県内における具体的事例

- ・気持ちを考えない相手から、冷やかしか嫌なことを言われた。
- ・誹謗中傷の言葉を SNS 上にアップされ、拡散された。

ウ 高等学校における多い態様

- ① 冷やかしからかい、悪口や脅し文句、嫌なことを言われる。
- ② 嫌なことや恥ずかしいこと、危険なことをされたり、させられたりする。

※ 県内における具体的事例

- ・運動部で複数の部員から、ミスを叱責されたり馬鹿にされた。
- ・SNS上で性的な画像を送信され、拡散された。

エ 特別支援学校における多い態様

- ① 冷やかしかからかい、悪口や脅し文句、嫌なことを言われる。
- ② パソコンや携帯電話等で、ひぼう・中傷や嫌なことをされる。

※ 県内における具体的事例

- ・ 性的な言葉がけをされたり、身体を触られたりした。
- ・ SNS上で誹謗中傷、悪口を書かれた。

(5) いじめの重大事態の総発生件数

公立小・中学校および県立学校の合計 20 件【前年度（13 件）より 7 件増加】であり過去最多

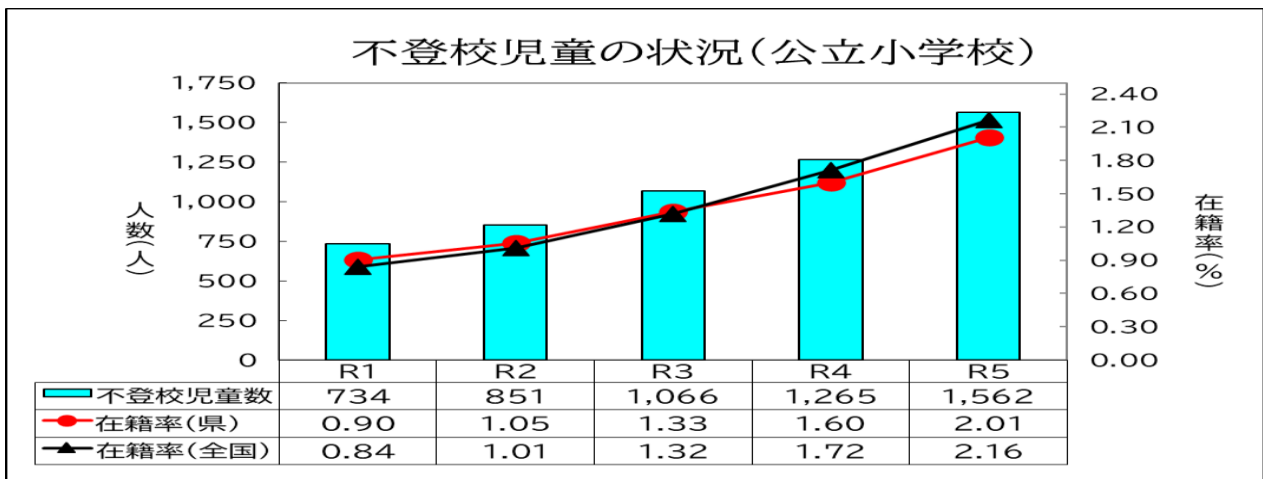
3 公立小学校、公立中学校および県立高等学校における長期欠席の状況

（長期欠席は理由別に「病気」「経済的理由」「不登校」「その他」の4種類）

(1) 理由別長期欠席者数および不登校児童数（小学校）

- ① 公立小学校における長期欠席 **〈表（7）（8）〉**

年間 30 日以上の長期欠席者数 2,670 人【前年度（2,476 人）より 194 人増加】



- ② 長期欠席者のうち不登校児童数 1,562 人【前年度（1,265 人）より 297 人増加】であり過去最多
不登校児童の在籍率 2.01%【前年度(1.60%)より 0.41 ポイント増加】であり過去最高

【学校内外の機関等で相談・指導等を受けていない児童】 **〈表（9）〉**

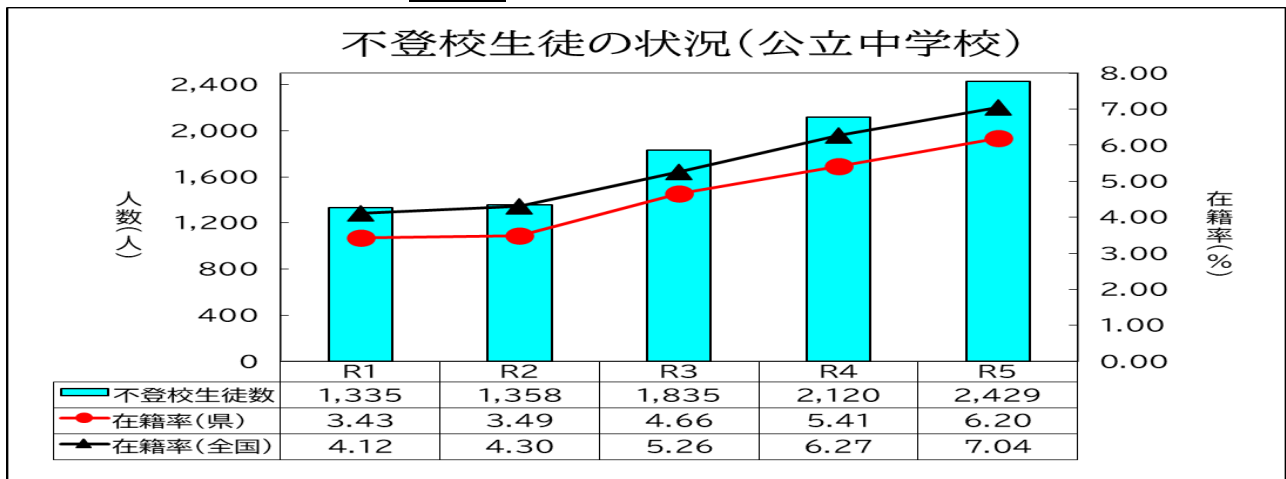
不登校児童数のうち 493 人【前年度(365 人)より 128 人増加】

不登校児童数に占める割合 31.6%【前年度(28.9%)より 2.7 ポイント増加】

(2) 理由別長期欠席者数および不登校生徒数（中学校）

① 公立中学校における長期欠席〈表 (10) (11)〉

年間 30 日以上の長期欠席者数 3,289 人【前年度 (3,242 人) より 47 人増加】



② 長期欠席者のうち不登校生徒数 2,429 人【前年度 (2,120 人) より 309 人増加】であり過去最多
不登校生徒の在籍率 6.20%【前年度(5.41%)より 0.79 ポイント増加】であり過去最高

【学校内外の機関等で相談・指導等を受けていない生徒】 〈表 (12)〉

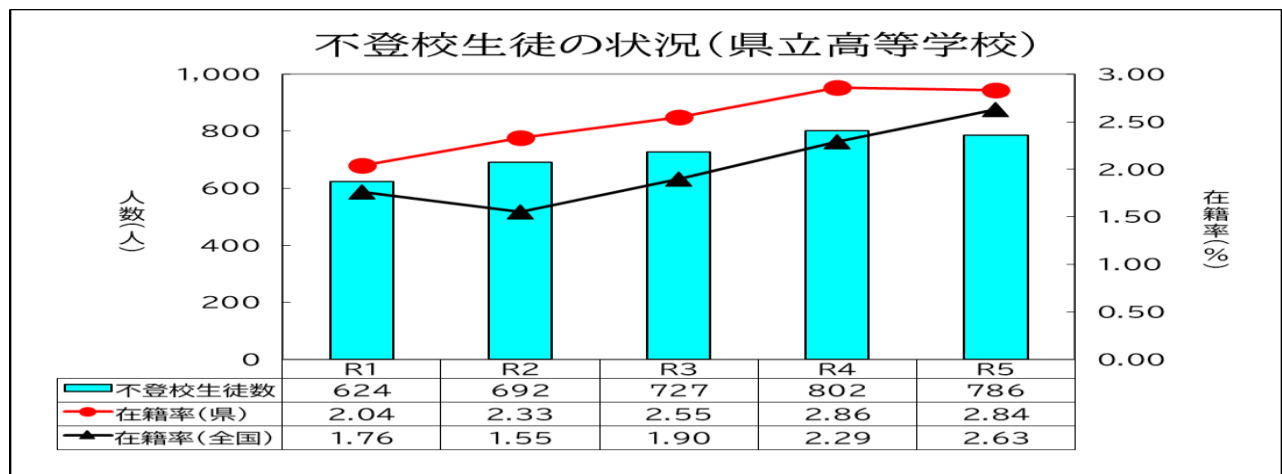
不登校生徒のうち 928 人【前年度 (732 人) より 196 人増加】

不登校生徒数に占める割合 38.2%【前年度(34.5%)より 3.7 ポイント増加】

(3) 理由別長期欠席者数および不登校生徒数（高等学校）

① 県立高等学校における長期欠席 〈表 (13) (14)〉

年間 30 日以上の長期欠席者数 1,119 人【前年度 (1,187 人) より 68 人減少】



② 長期欠席者のうち不登校生徒数 786 人【前年度 (802 人) より 16 人減少】

不登校生徒の在籍率 2.84%【前年度(2.86%)より 0.02 ポイント減少】

(全日制の不登校生徒数 634 人【前年度 (656 人) より 22 人減少】)

(定時制の不登校生徒数 152 人【前年度 (146 人) より 6 人増加】)

【学校内外の機関等で相談・指導等を受けていない生徒】 〈表 (15)〉

不登校生徒のうち生徒数 326 人【前年度 (342 人) より 16 人減少】

不登校生徒数に占める割合 41.5%【前年度(42.6%)より 1.1 ポイント減少】

(4) 不登校児童生徒について把握した事実

ア 公立小学校における不登校児童について把握した事実〈表(16)〉

- ・不登校要因の主たるものは、「学校生活に対してやる気が出ない等の相談」が509人(32.6%)、「不安・抑うつの相談」が490人(31.4%)を占める。

イ 公立中学校における不登校生徒について把握した事実〈表(17)〉

- ・不登校要因の主たるものは、「学校生活に対してやる気が出ない等の相談」が795人(32.7%)、「不安・抑うつの相談」が726人(29.9%)を占める。

ウ 県立高等学校(全日制)における不登校生徒について把握した事実〈表(18)〉

- ・不登校要因の主たるものは、「不安・抑うつの相談」が168人(26.5%)、「学校生活に対してやる気が出ない等の相談」が155人(24.4%)を占める。

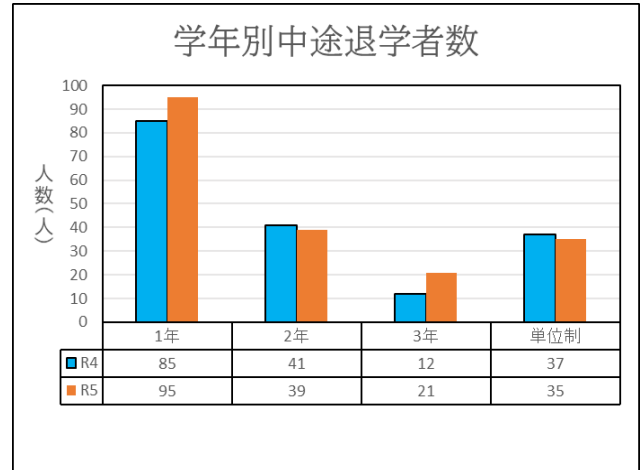
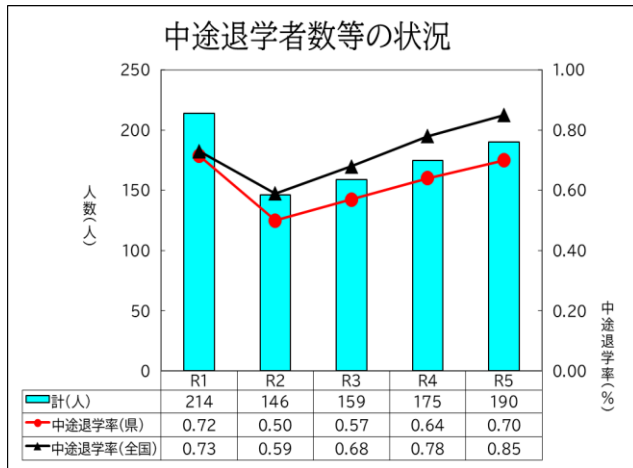
エ 県立高等学校(定時制)における不登校生徒について把握した事実〈表(19)〉

- ・不登校要因の主たるものは、「学校生活に対してやる気が出ない等の相談」が98人(64.5%)、「生活リズムの不調に関する相談」が47人(30.9%)を占める。

4 県立高等学校における中途退学者数等の状況（全日制）

（1） 年度別・学年別中途退学者数・中途退学率〈表（20）〉

- ① 中途退学者数 190 人【前年度（175 人）より 15 人増加】
- ② 中途退学率 0.70%【前年度（0.64%）より 0.06 ポイント増加】
- ③ 1 年生の中途退学者数 95 人【前年度（85 人）より 10 人増加】
- ④ 2 年生の中途退学者数 39 人【前年度（41 人）より 2 人減少】
- ⑤ 3 年生の中途退学者数 21 人【前年度（12 人）より 9 人増加】
- ⑥ 単位制の中途退学者数 35 人【前年度（37 人）より 2 人減少】



（2） 学科別中途退学者数・中途退学率〈表（21）〉

- ① 普通科の中途退学者数 115 人【前年度（99 人）より 16 人増加】
普通科の中途退学率 0.63%【前年度（0.54%）より 0.09 ポイント増加】
- ② 専門学科の中途退学者数 42 人【前年度（47 人）より 5 人減少】
専門学科の中途退学率 0.76%【前年度（0.86%）より 0.10 ポイント減少】
- ③ 総合学科の中途退学者数 33 人【前年度（29 人）より 4 人増加】
総合学科の中途退学率 0.95%【前年度（0.82%）より 0.13 ポイント増加】

（3） 学年別理由別中途退学者数〈表（22）〉

- ・最も多い理由「学校生活・学業不適応」
102 人（53.7%）【前年度（77 人）より 25 人増加】
- ・次に多い理由「進路変更」 34 人（17.9%）【前年度（73 人）より 39 人減少】

5 公立小学校、公立中学校、県立高等学校における自殺の状況

- ・総自殺者数は 6 人